病院藤田博士から分与された)とは少なくても反応しなかったので Yersinia pestis や Francisella tularensis の可能性は否定された。

D. 考察

輸入プレリードッグ50頭、ジリス20頭について、脾臓標本のギムザ染色、並びに診断用抗原に対する蛍光標識抗体によるペスト菌の検出法によってはペスト菌は検出できなかった。輸入プレリードッグ50頭、ジリス20頭、動物園等で飼われていたプレリードッグ74頭について血清を採取して、ペスト抗体価が上がっているかを調べたが、全て陰性であった。これらの結果を確認するため、ウエスタンブロッティングでFraction 1抗原を検出することを試みる予定であったが、ジリスIgM, IgGを検出するための抗体が入手できなかった。今後は検討する予定である。

E. 結論

アメリカのペスト病巣窟のある州から、野生でしか繁殖出来ないプレリードッグが大量に輸入されているが、それらがペスト菌に感染している可能性について検討を行った。今回対象としたプレリードッグ、ジリスからは、ペスト菌の分離およびペスト菌に対する抗体は共に陰性であった。しかし、用いた動物が、ペスト非流行の冬季に捕獲されたものが多いことを考慮すると、最終的結論をえるためには、今後、捕獲すべき動物にたいするペストの生態分布等を考慮に入れた継続的調査が必要と考える。

F. 研究発表

イムノブロットおよび PCR 法を用いた Yersinia pestis と Francisella tularensis 等の鑑別法の開発　塚野尋子、藤田博己、渡邊治雄　感染症学雑誌74巻臨時増刊号・146pp, 2000

図1.　summary

動物の種類及び状況	ペスト菌検査	ペスト抗体検査
輸入プレリードッグ	0/50	0/50
動物園等で飼われているペレリードッグ	0/74	0/74
ペットショップ売られていたジリス	0/20	0/20

平成11年度厚生科学特別研究事業

アンケート調査の集計結果

神山恒夫（国立感染症研究所獣医科学部）

調査要旨：国内に輸入され、一般家庭で飼育されているプレーリードッグ等の感染症罹患状況を調べるために、臨床獣医師の協力を得て、アンケートによる調査を行った。全国973名の獣医師から回答を得、このうちプレーリードッグの診察経験を有すると回答したものは68.4%、ジリスの診察経験を有すると回答した獣医師は18.4%であった。いずれの動物種も、種々の原因による感染症を発症し、治療を受けていることが明らかとなった。一部に人獣共通感染症と推測されるものも認められたが、アンケートの範囲内では詳細は不明であった。野生動物をペットとして飼育することに対して異議を唱える意見がみられた。

1. 調査目的

輸入され、国内で飼育されているプレーリードッグをはじめとしたげっ歯類等が人獣共通感染症の病原としてどの程度危険であるのかは、実際に飼育されている動物における感染症の実態を調査することで把握できると期待される。これは、現在ペット用に輸入されている野生げっ歯類等は検疫の対象には指定されていないこと、また、輸入にあたって健康状態を証明するための書類等の添付は必要とされていないため、輸出国側での健康状態および輸入直後の健康状態を調査することは困難な面もある。さらに、ペットショップ等で販売されている野生げっ歯類等に関しては必ずしもその健康状態が明らかでない場合もあるとされる。

本研究班では、国内でペットとして飼育されている輸入野生げっ歯類等の健康状態を調査するために小動物臨床獣医師を対象として診察経験等の調査を行った。この調査では、ペットとして飼育されてから飼い主によって獣医科病院に持ち込まれて診察を受けた動物が対象となっている。この調査結果は必ずしも輸入直後の健康状態を反映しているものではないことは明らかであるが、前述したように用いることのできる調査手段には自ずと限界があるため、今回はこの方法を採用した。

2. 調査方法

調査はアンケート方式とし、小動物臨床獣医師を対象にアンケートを送付した。調査を効率的に行うために、送付対象は日本小動物臨床獣医師会所属の獣医師のうち「輸入動物および媒介動物由来人獣共通感染症の防疫対策に関する総合的研究」（平成10年度新興再興感染症事業、班長：吉川泰弘）のアンケート調査に解答を寄せた獣医師とした。

3. 集計結果

2000年1月7日、調査対象総数2025名の獣医師に対してアンケートを郵送した。このうち5通は住所不明等で返送されてきた。残り2020名のうち2000年3月31日現在で978名（48.4%）から解答が寄せられた。

次ページ以降に実際に送付したアンケートを示し、つぎに回収されたアンケートの集計結果をまとめる。なお白紙回答は診察症例ゼロ、または「意見なし」として取り扱った。

各　位

2000 年 1 月 10 日

厚生省特別研究班
「野生げっ歯類等に関連する
動物由来感染症に関する疫学的研究」
研究代表者　　神山　恒夫

「野生げっ歯類等に関連する動物由来感染症に関する疫学的研究」へのご協力のお願い

謹啓　時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、皆さまもご承知のとおり、今般北アメリカにおけるプレーリードッグ等野生げっ歯類のペスト汚染の問題が指摘されたことから、わが国にペットとして輸入されているげっ歯類等の健康問題に関して関心が高まっております。輸入された野生げっ歯類等の中にペスト感染動物が混入している可能性は通常の条件ではあり得ない、もしくはきわめて低いものと思われますが、この点を危惧するペット愛好家等に対して科学的な調査に基づいた説明を行うことも必要であると考えられます。

このため、輸入された野生げっ歯類等の実態調査等の目的で、今般厚生省特別研究班「野生げっ歯類等に関連する動物由来感染症に関する疫学的研究」が発足いたしました。この研究班では輸出国における実態調査とともに、すでに輸入され飼育されている野生由来げっ歯類等に関する調査を行うことが重要であると考えております。そこで、厚生省新興再興感染症事業「輸入動物及び媒介動物由来人獣共通感染症の防疫対策に関する総合的研究」（班長：吉川泰弘東京大学教授）ならびに日本小動物獣医師会人獣共通感染症委員会のご協力のを得て、小動物臨床にご経験を積まれております先生方をご紹介いただき、アンケートにより情報提供のお願いをすることといたしました。

つきましては、ご多忙中のところ恐縮に存じますが、この調査の趣旨をご理解いただき、格別のご協力をお願い申し上げます。

なお、アンケートは記名、無記名のいずれでも結構ですが、ご回答いただきました内容につきましては、その取り扱いに十分注意し当調査の目的以外には使用しないこととし、記名回答をいただいた場合にも先生方の個人名および病院名は公表いたしません。アンケートの個票は班長の元に保管いたしますが、集計結果は研究班の報告書として、後日公表する予定です。ご希望の先生には集計結果を郵送いたします。

本研究班の目的をご理解いただき、ご協力いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

敬　具

問い合わせ先：　神山恒夫　〒162-8640　東京都新宿区戸山1-23-1
国立感染症研究所　獣医科学部人獣共通感染症室
電話　03-5285-1111　内線 2622　　直通　03-5285-1316
Fax　03-5285-1179
E-メール　kamiyama@nih.go.jp

アンケート　　（野生げっ歯類等に関連する動物由来感染症に関する疫学的研究）　2000 年 1 月

問 1　これまでに次の動物の診療経験をお持ちですか？
経験をお持ちの場合、約何頭位ですか？
診療経験をお持ちでない場合は 0（ゼロ）をご記入下さい。

動物種	1997 年以前	1998 年	1999 年
プレーリードッグ	約　　頭	約　　頭	約　　頭
ジリス	約　　頭	約　　頭	約　　頭
ハリネズミ	約　　頭	約　　頭	約　　頭

問 2　これまでに次の動物が死亡して持ち込まれた経験はお持ちですか？
経験をお持ちの場合、約何頭位ですか？
経験をお持ちでない場合は 0（ゼロ）をご記入下さい。

動物種	1997 年以前	1998 年	1999 年
プレーリードッグ	約　　頭	約　　頭	約　　頭
ジリス	約　　頭	約　　頭	約　　頭
ハリネズミ	約　　頭	約　　頭	約　　頭

問 3　上記動物種のなかに感染症が疑われた症例がありましたら下記の記入欄に診断方法、治療法および予後をご記入下さい。

	回答例　1	回答例　2	症例　1	症例　2
動物種 診療年	プレーリードッグ 1999 年	ジリス 1997 年以前		
疑われた感染症	パスツレラ症	細菌、ウイルスまたは原虫感染		
主な症状（概略）	結膜炎、皮下膿瘍 鼻腔内膿性鼻汁	解剖所見：脾腫、壊死性所見、出血性所見		
診断方法（概略）	菌分離	解剖所見から		
治療法（概略）	テトラサイクリン剤投与	死亡後持ち込み		
予　後（概略）	完治			

問3　続き

	症例　3	症例　4	症例　5	症例　6
動物種 診療年				
疑われた 感染症				
主な症状				
診断方法 （概略）				
治療法 （概略）				
予　後 （概略）				

さらに症例をお持ちの場合、別途ご記入いただくと幸いです。

問4　その他に、本研究班の目的に関連して、野生げっ歯類と感染症について、お寄せいただける情報がありましたらお書き下さい。

差し支えなければお名前、病院名、およびご住所をご記入下さい。

お名前：

病院名：

ご住所：

電　話：

集計結果報告書をご希望になりますか？　　**希望する**　　**希望しない**
　ご希望の方には 2000 年 5・6 月を
　目途に上記住所にご送付いたします。

以上です。　お忙しい中ご協力ありがとうございました。
なお、集計の都合上 **1月末日までに** 投函していただくようお願いいたします。

回答の集計結果 - 続き

問1：「これまでに次の動物の診察経験はお持ちですか？」

回答のあった診断動物数の合計を各年ごとに示す。ただし、「数匹」、「十数匹」と記入された回答も見られたので、集計の都合上それぞれ7.5匹および17.5匹として計算した。また、白紙回答は診察症例ゼロとして計算した。

動物種	1997年以前	1998年	1999年
プレーリードッグ	1087	1337	1761
ジリス	420	298	293
ハリネズミ	199	183	201

この回答から、プレーリードッグの診察数は年次ごとに増加傾向にあることが明らかとなった。この動物種のペットとしての飼育熱が高まったのがこの数年といわれていること、および多くの動物が幼若令で輸入されてその寿命が5-10年とされていることから、この増加の背景には飼育頭数の増加があるものと推定される。この点に関しては輸入頭数の年次別の統計が得られることでより明らかになると思われるが、全国レベルの年次別統計はとられていない。ジリスおよびハリネズミの診察数には経年的な傾向は認められなかった。

白紙回答を除く974名の獣医師のうち、プレーリードッグの診察経験を有すると回答したものは666名、68.4%に達した。これは、この動物がペットとして広く飼育されていることを示しているものと思われる。一方ジリスの診察経験を有する獣医師は180名、18.5%にとどまり、プレーリードッグに比べてペットとしての一般性は低いものと推定された。

問2：「これまでに次の動物が死亡して持ち込まれた経験はお持ちですか？」

回答のあった死後持ち込み動物数の合計を各年ごとに示す。また白紙回答は診察症例ゼロとして計算した。

動物種	1997年以前	1998年	1999年
プレーリードッグ	19	28	42
ジリス	21	11	13
ハリネズミ	10	11	12

この質問の目的は、飼育中に“原因不明”等で急性症状をあらわして死亡し、原因の確認を求めて獣医師に持ち込まれる動物がいるものか否かを調査することであった。またペットショップ等で購入した後早期に死亡する動物があるとすればこの回答に含まれるものと期待した。

診察総数に比べて死亡後持ち込み動物数はプレーリードッグで1.8-2.7%、ジリスとハリネズミで4.0-6.2%と少数であることが示された。

しかし、設問の趣旨が明らかでなかったこともあり、必ずしも急性症状による死亡原因不明動物の実態は明らかとはならなかった。

問3：「上記動物のなかに感染症が疑われた症例がありましたら下記の記入欄に診断方法、治療

法および予後をご記入下さい」

次ページ以降に、記入された回答の全てを修正を加えずに掲げる。ただし、回答の中には明らかに感染症とは無関係と思われる症例も含まれていたのでそれらは省略した。回答は（1）プレーリードッグ、（2）ジリスおよび（3）ハリネズミについてのみ示すこととし、一部の回答者から寄せられたこれら以外の動物種の診察情報はここには掲げない。

いずれの動物種も、細菌・ウイルスをはじめ様々な原因による感染症が疑われ、治療を受けていることが明らかとなった。上げられた症例数はプレーリードッグが303例、ジリスが41例、およびハリネズミが54例であった。ここに回答された症例は感染症が疑われた症例の一部であると思われたので、実際に感染症関連で治療を行った動物数はこれを上回るものと考えられる。

問 4：「その他に、本研究班の目的に関連して、野生げっ歯類と感染症について、お寄せいただける情報がありましたらお書き下さい。」

問4への回答は問3への回答に続けて、記入された回答の全てを、修正を加えずに掲げた。ただし、病院名等に固有名詞が用いられていた場合には「○○」とした。また「症例なし」、「お役に立てなくて済みません」などと簡単に記された回答（合計34名）は省略した。

寄せられた回答の中で目立ったのは、20名近くの回答者が野生動物をペットとして飼育することに対して反対の立場を明確にしていたことであった。これらの回答の中には、売らんかなのペット業界に対する批判のほかに、輸入・販売等の規制を強化すべきであるとして厚生省等の姿勢に対する不満を訴えるものが見られた。一方、10名以上の回答者は「（あえて）エキゾチックアニマルの診察は行わない」ことを表明している。この意思表示の背景としてエキゾチックアニマルはペットとして飼育すべきではないとの主張があるものと思われた。

4. 考察

問3に対する回答の中には人獣共通感染症と推測される症状をあらわす動物が散見された。しかし、アンケートの範囲内でそれを確認することはできなかった。ペット飼育動物はヒトとの距離がきわめて近いため、この点に関しては今後注意深い調査が必要であると考えられた。

問4では回答形式を問わなかったにもかかわらず、回答者のほぼ20％が野生動物をペットとして飼育することに反対の立場を表明したことが注目された。

5. 謝辞

多忙な診察時間を割きアンケートに回答し返送していただいた日本小動物獣医師会所属の諸先生には深く感謝申し上げます。このうち、「集計結果の送付を希望しない」とした回答者を除く739 名には本報告書のアンケート集計結果の章のコピーを送付して報告に代えることとします。また、アンケート対象の選択にご協力をいただいた東京大学吉川泰弘教授（「輸入動物および媒介動物由来人獣共通感染症の防疫対策に関する総合的研究」班、班長）、日本小動物獣医師会人獣共通感染症委員会岡本有史委員長、ならびに東レリサーチセンター（株）に感謝いたします。

問3　集計結果　（1）ブレーリードック

No.	疑われた感染症	主な症状	診断方法	治療法	予後
1	原虫？検出せず	下痢	顕微鏡検査	スルファジメドキシン内服	治癒不明
2	ウイルス？	くしゃみ、濃性鼻汁	臨床症状から	クロマイ液内服	次回不来のため治癒不明
3	真菌感染	表皮剥離、鱗屑、脱毛	症状	外用：イソジン、クロトリマゾール	完治
4	細菌性	下痢	便を直接鏡検	クロラムフェニコール投与	完治
5	細菌性胃腸炎	水様血便	問診、視診、臨床症状のみ		来院途中で死亡
6	皮膚病	痒み、湿疹	皮膚病変、同居猫の存在等	動物用シャンプー、フラジオマイシン、ナイスタチン投与	完治
7	細菌性の感染症？	膿性鼻汁、咳、元気消失	X-ray, CBC	ネブライジング、抗生剤、酸素ボックス	死亡
8	細菌又はウイルス性鼻気管炎	元気・食欲減退、鼻が詰まる（くしゃみ、咳、目やにはない）、目の上の脱毛	症状から	クロラムフェニコール、プレドニゾロン注射、抗真菌薬（皮膚へ）	不明
9	細菌？	結膜炎、濃性鼻汁	臨床症状から	ビブラマイシン液	次回不来のため治癒不明
10	ジアルジア感染	下痢、食欲・元気消沈	検便	メトロニダゾール投与	
11	細菌感染			クロラムフェニコール投与	不明
12	肺炎	呼吸困難	胸部Ｘ線	セファム系抗生剤投与	翌日死亡
13	細菌感染？	血便		ゲンタシン投与	不明（一度だけの来院）
14	全身慢性感染症	間質性肝炎、間質性腎炎、化膿性胸腔炎 Burkholderia cepacia, Alcaligemes xylosoxidays subsp, denitrificans（真菌）	病理解剖		死亡
15	細菌感染	下痢	便の鏡検	クロラムフェニコールの内服	治癒
16	トリコモナス症	下痢	検便	メトロニダゾール	不明
17	トリコモナス感染	下痢、発熱（主症状）	検便（直接法、集虫法）	ドキシサイクリン、メトロニダゾール投与	完治
18	感染症、栄養障害、ロート胸、不正交合	APP, VIG↓、鼻汁、気管支肺炎、肝腫	培養、細胞診、バリウム造影、ECG、エコー（腹部、BT、UT、FT）	ネブライジング、静脈内点滴、抗生剤、アセナリン、アガリスク、キチンキトサン、コンドロイチン、ビタミン剤	コントロール１年間
19	感冒？	漿液性鼻汁	臨床所見より	バイトリル	完治
20	細菌	下痢	CBC, F=T	ERFX PO, inj	完治
21	細菌	鼻汁、呼吸困難		ニューキノロン剤投与	完治
22	細菌感染	鼻腔内膿性鼻汁	臨床症状から	クロロマイセチン投与	死亡
23	細菌	後脚外傷		サルファ剤	良好
24	？	鼻出血、発熱		抗生剤、消炎剤、	２日後死亡

No.	疑われた感染症	主な症状	診断方法	治療法	予後
25		ロート胸のみ	培養、細胞診、バリウム造影、ECG、エコー(腹部、BT、UT、FT)	ネブライジング、静脈内点滴、抗生剤、アセナリン、アガリスク、キチンキトサン、コンドロイチン、ビタミン剤	
26		ロート胸のみ	培養、細胞診、バリウム造影、ECG、エコー(腹部、BT、UT、FT)	ネブライジング、静脈内点滴、抗生剤、アセナリン、アガリスク、キチンキトサン、コンドロイチン、ビタミン剤	
27	原虫、条虫	虫体検出	鏡検(直接)	抗生剤、メトロニダゾール投与	不明
28	細菌、ウイルス	開口呼吸、呼吸速迫		ニューキノロン剤投与	不明
29	細菌感染？過肥による慢性発咳	咳、食欲↓、漿液性の鼻汁	X-ray, CBC、鼻汁の培養	ネブライジング、抗生剤、酸素ボックス	良好
30	不明(呼吸器感染症？)	呼吸速迫、発熱、脱水	臨床症状のみ	補液、抗生剤	死亡
31	パスツレラ症？	結膜炎、顔面皮下膿瘍、濃性鼻汁	菌分離	テトラサイクリン他、対症療法	死亡
32	細菌又はウイルス性感染症(不明)	てんかん様神経症状	臨床症状	酸素吸入、ジアゼパム、抗生物質投与	死亡（一時回復後も、数日後再発作したとのこと）
33	細菌または真菌	膿性鼻汁、くしゃみ	臨床症状から	セファロキシン投与	完治
34	化膿菌	膿瘍、自潰	臨床症状	ドキシサイクリン投与	完治
35	真菌感染	腹部脱毛症状	症状から	グリゾビン、抗生剤投与	良好
36	細菌・ウイルス感染	くしゃみ、鼻水	症状から	バイトリル-ビタミン剤投与	良好
37		食欲不振、下痢		抗生物質注射	
38		元気喪失、食欲不振、咳		ネブライザー、塩化リゾチウム投与、抗生物質投与	完治
39		下痢、嘔吐		抗生物質注射、ビタミン剤投与	
40	細菌、ウイルス	発熱(43℃以上)、痙攣	視診等	バイトリル、Predonin投与	死亡
41	細菌、ウイルス	発熱(40-41℃)、痙攣	視診等	バイトリル、Predonnm投与	完治
42	細菌感染	口内潰瘍、体温上昇	臨床症状	抗生物質投与	完治
43	細菌、ウイルス	発作性痙攣、発熱	視診等	バイトリル、Predonnm投与	完治
44	テンパー様疾患	ﾃﾝﾊﾟｰ様症状	一般所見	輸液、抗生剤、ステロイド、ビタミン剤	死亡
45	細菌感染	鼻出血	臨床症状	抗生物質投与	完治
46	細菌感染	皮膚化膿巣	対飼育でけんかとの報告から	消毒薬外用、抗生剤内服	完治
47	細菌又はウイルス感染	下痢	リン告、便の性状(状態より)	テトラサイクリン系投与	不明
48	細菌	下痢	検便	ゲンタマイシン投与	完治

No.	疑われた感染症	主な症状	診断方法	治療法	予後
49	ウイルス感染	趾瘤	特になし	ドキシサイクリン投与	壊死脱落し、治癒
50	真菌症	脱毛	臨床症状から	ヨウ素系消毒液にて皮膚の消毒	完治
51	真菌(糸状菌)症	脱毛、苔癬化、鱗屑	Wood lights、治療的診断、Skin-scraping	グリセオフルビン剤投与、ミコナゾール塗布、ノルバサンシャンプー	完治
52	細菌又はウイルス(不明)	顔面皮下結節		ニューキノロン剤	死亡
53	不明	痩削	血液検査、X-ray、超音波検査するも不明	ニューキノロン剤	死亡
54	呼吸器感染	努力呼吸、軟便	身体一般検査	バイトリル、リンゲル、ビタミン S.C.	不明
55	呼吸器感染症	結膜炎、鼻腔内膿性鼻汁	症状より	テトラサイクリン剤内服投与、タイロシン皮下注射	完治
56	皮膚真菌症	脱毛	ウッド灯テスト	グリセオフルビン投与	完治
57	トリコモナス	下痢、食欲不振	検便	メトロニダゾール	治癒
58	非化膿性脳炎ウイルス？	突然、宿主に噛みつく、痙攣、回転運動、１日に数回反引、硬直	麻酔をかけて採血の必要ありと話したところ、以降来院せず		
59	細菌、ウイルス感染？	食欲低下、開口呼吸		ステロイド剤、セフェム系抗生剤、制吐薬、消化管内ガス駆除剤	完治
60	細菌又はウイルス感染	全身衰弱、鼻汁、肺野ラ音、気管支肺炎	症状、理学所見から	マクロライド系抗生物質投与	翌日死亡
61	膀胱炎(原因菌不明)	血尿	症状から	ペニシリン系抗生物質投与	不明
62	肺炎(細菌性？)	鼻汁、咳		抗生剤投与	完治と思われる
63	細菌	下痢	抗生物質に反応	アンピシリン	完治
64	細菌又は原虫感染の疑い	下痢	糞便検査　細菌数増加、オーシスト等は認めず	ドキシサイクリン剤投与	中止
65	コクシジウム感染、細菌性腸炎	下痢、脱水	検便	ＳＴ合剤（トリビリッセン）	翌日死亡
66	トリコモナス及びコクシジウム感染症	軟便	検便	メトロニダゾール投与及びサルファ剤の投与	不明
67	細菌感染	結膜炎	臨床所見より	タリビット点眼	完治
68	パスツレラ症	皮下膿瘍（顔面）	臨床症状より	アンピシリン投与	不明
69	細菌	皮下膿瘍	バイオプシーにより化膿性炎症像	ペニシリン投与	不明
70	原虫感染	軟便	検便	メトロニダゾール投与	完治

No.	疑われた感染症	主な症状	診断方法	治療法	予後
71	細菌	膿皮症		ドキシテトラサイクリン投与	
72	ノミ感染	脱毛	ノミ成体確認	フィプロニル塗布（フロントライン）	完治
73	原虫感染（ジアルジア）	体重減少	検便：直接飽和食塩水浮遊法	整腸剤投与	臨床症状の改善
74	バクエロイデス、カンジタ感染症	頭部皮下膿瘍、全眼球炎	菌分離	キノロン系薬	死亡
75	肺炎	解剖所見：左肺外傷痕あり、各部臓器鬱血著しい	解剖所見		死亡後持ち込み
76		皮下膿瘍（個体間の咬傷による）	菌分離は実施せず。	消毒、切開、排膿	完治
77	細菌感染	膿鼻汁		テトラサイクリン（ビブラマイシン）	完治
78	細菌、真菌、原虫	下痢	検便	ニューキノロン、抗原虫剤、抗真菌剤	完治
79	細菌感染	濃性鼻汁、くしゃみ、食欲低下	薬剤感受性検査、臨床症状	ニューキノロン、ST合剤、ゲンタマイシン投与	一旦良化したが死亡
80	細菌性呼吸器感染症？	鼻腔内鼻汁、発咳	菌分離されず、X線問題なし	セフェム系抗生剤など	一度完治するも６ヶ月後同症状にて１ヶ月治療後死亡
81	細菌	皮膚炎	臨床所見、鏡検	エンロフロキサシン投与	完治
82	細菌	下痢、脱水	症状	キノロン投与	完治
83	細菌感染	皮膚痂皮形成	痂皮下膿汁中に直接鏡検で球菌	セフェム系抗生物質投与	治癒
84	細菌又はウイルス感染	濃性鼻汁、元気・食欲消失	臨床所見から	セフェム系抗生物質投与	治癒
85	細菌かウイルス感染（パスツレラの疑いもあり）	鼻孔粘膜の腫脹、くしゃみ	症状より	クロラムフェニコール	不明
86	跛口？腹部化膿	跛口から血膿、跛口？臍の間の皮膚化膿、膿汁排出	症状から	エンロフロキサシン投与、イソジン洗浄	完治
87		食欲不振		皮下点滴、タリビット投与	完治
88	細菌感染症	漿液性鼻汁	臨床症状から	ニューキノロン系抗生剤投与	完治
89	S. aureus感染	膿皮症	菌分離	セファレキシン投与	完治　1年後肝細胞癌により死亡
90	細菌又はウイルス感染	消化管内に異常なガス貯留		数種の抗生剤、対症療法	３ヶ月治療したが死亡
91	細菌・ウイルス	呼吸速迫、濃性鼻汁	臨床所見より	テトラサイクリン剤投与	不明
92	パスツレラ	風邪症候群	症状から	CP or OFLX	死亡
93	細菌性	全眼球炎		エンロフロキサシンSC、エンソミン眼軟膏	失明
94		膀胱炎		ERFx Drop eye	完治

No.	疑われた感染症	主な症状	診断方法	治療法	予後
95	細菌又はウイルス感染	血便、体温低下	検便:寄生虫(-)、臨床症状	栄養注射、強心剤、抗生物質投与	すぐ死亡
96	呼吸器感染症	鼻汁、肺炎、開口呼吸	症状から	抗生剤、ネブライジング	死亡
97	ウイルス感染	角膜炎、腹ロテンカン		抗生物質点眼、全身投与	死亡
98	細菌又はウイルス感染	呼吸困難、食欲不振、嚥下困難、鼻汁	臨床所見より	エンロフロキサシン投与→ドキシサイクリン	治癒
99		下痢	検便、鉤虫	コンバントリン	完治
100	原虫	下痢、嘔吐	鏡検(直接)	メトロニダゾール投与	不明
101	風邪(パスツレラ症)	くしゃみ、呼吸困難、水様性鼻汁	症状より	ダイメトンシロップ、保温	完治
102	細菌性下痢(腸炎)	下痢、脱水		テトラサイクリン剤投与	完治
103	細菌	鼻炎		エンロフロキサシン投与	完治
104	パスツレラ症	くしゃみ、鼻水	特になし	エンロフロキサシン投与	一応治癒したと思われる
105	細菌、原虫	下痢	鏡検にて長桿菌増加、原虫確認	クロラムフェニコール、メトロニダゾール投与	治癒
106	細菌	鼻汁、呼吸困難		ニューキノロン剤投与	完治
107	細菌感染、特にパスツレラ	皮下膿瘍	肉眼のみで膿腫の色、臭い等で判断	洗浄、ゲンタマイシン投与	治癒
108	細菌感染	膿性鼻汁	臨床所見から	エンロフロキサシン剤投与	完治
109	真菌症	被毛脱毛、皮膚色素沈着	真菌培養	フルビシン投与	完治
110	真菌症	下痢	顕微鏡での糞便検査	ナイスタチン経口投与	完治
111	細菌もしくはウイルスによる呼吸器感染	肺野における雑音、鼻汁	治療的診断	抗生剤(T, C, OFX)	同年死亡
112	コクシジウム症	下痢	糞便検査から	サルファシメトキシン投与	完治
113	細菌感染	膿性鼻汁、努力性呼吸	菌分離	ニューキノロン系抗生物質	死亡
114	細菌	下痢(水様、黄色)		クロラムフェニコール	
115	呼吸器感染	努力呼吸	身体一般検査	A.H.L.L.ビタミン、ミネラルP.O.	4ヶ月間で2回再発、その後不明
116	マイコプラズマ症	鼻漏、くしゃみ	菌分離	ニューキノロン	完治
117	ミミダニ、細菌感染(シュードモナス)	外耳炎	肉眼所見、細菌培養	CP剤内服	完治
118	細菌感染	下痢		エンロフロキサシン投与	完治
119	細菌・ウイルス又は原虫感染→コクシジウム症	軟便(不定期)	原虫を糞便より分離	サルファ剤投与(4週間)	完治
120	皮膚真菌症	脱毛	ウッド灯テスト	グリセオフルビン投与	完治

No.	疑われた感染症	主な症状	診断方法	治療法	予後
121	細菌性肺炎	咳、元気・食欲の喪失	胸部レントゲン写真	エンロフロキサシン全身投与	完治
122	原虫感染	下痢	便中の原虫確認	サルファ剤投与	完治
123	パスツレラ	膿性鼻汁、呼吸困難		抗生剤、気管支拡張剤	専門病院紹介
124	細菌	くしゃみ、鼻水		ニューキノロン剤、インターフェロン、ネブライザー	治癒
125	細菌	鼻炎、下痢			専門病院紹介
126	細菌	鼻炎、元気なし		補液、抗生剤	不明
127	パスツレラ	呼吸器症状		ビブラマイシン	症状消失
128	コクシジウム	軽度の下痢	検便	サルファ剤	治癒
129	細菌	下痢	抗生物質に反応した	アンピシリン	完治
130	細菌、ウイルス感染？	鼻汁、開口呼吸。食欲不振		セフェム系抗生剤、クロラムフェニコール系抗生剤投与etc、生食+5%ブドウ糖の補液、O2箱に入れる、エンロフロキサシン製剤	完治
131	細菌感染	下顎骨折、膿瘍	菌分離、腐骨片摘出	アミカシン、骨片摘出	完治
132	細菌	下痢	抗生物質に反応した	アンピシリン	完治
133	パスツレラ、カンジタ	結膜炎、外耳炎、膿性鼻汁、食欲低下、呼吸困難、胸水？	培養同定	エンロフロキサシン、ラシックス、リンゲル	死亡(真菌治療はやっておらず、結果が出たときは遅かった)
134	原虫感染(ジアルジア症)	下痢(水様)、脱水、ショック	直接塗末	メトロニダゾール50mg/Kg 、乳酸リンゲル	完治
135	パスツレラ症	結膜炎、鼻汁	菌分離	オフロキサシン投与	完治
136		くしゃみ、膿性鼻汁、肺炎	X線検査	テトラサイクリン剤投与、ステロイド剤投与	完治
137	細菌性膀胱炎	血尿、頻尿	症状より	キノロン系抗生剤投与	完治
138	細菌性	呼吸器症状-鼻炎、開鼻呼吸(+)	聴診-心雑音(-)、肺胞粗れい音(-)	バイトリル投与	？
139	細菌性腸炎？	水様性下痢	臨床症状から	クロロマイセチン注、クロロマイセチンシロップ投薬、メトクロクラミドシロップ投薬	完治
140	上部気道炎	くしゃみ、鼻水	臨床症状	クラブラン酸,アモキシリン	完治
141	細菌	鼻炎、開口呼吸	細胞診、球菌・桿菌検出	フラジオマイシン点鼻	改善
142	パスツレラ	皮下膿瘍	菌分離	CM/OFX	再発
143	外部寄生虫、細菌	皮膚炎（腋下部）	臨床所見	エンロフロキサシン剤、ルフェヌロン（IGR剤）	完治
144	ミミダニ	外耳炎	耳垢検査	Ivermectine注射	完治

No.	疑われた感染症	主な症状	診断方法	治療法	予後
145	細菌感染	３日間食欲無し、結膜炎、膀胱炎	臨床所見、尿検査(ペーパー)、菌(+)	ニューキノロン剤(バイトリル)投与	不明（その後来院無し）
146	細菌感染	鼻詰まり、門歯欠損		ニューキノロン投与（p.o）	
147	不明	食事不振	畜大へ転院？	抗生剤、クロロマイセチン？バイトリル？	死亡
148	細菌又はウイルス感染	呼吸器症状（咳）、下痢		バイトリル、クロロマイセチン輸液	完治
149	細菌感染	呼吸困難		バイトリル投与	50日後死亡
150	パスツレラ？	皮下膿瘍のみ	臨床所見から	エンロフロキサシン投与	完治
151	パスツレラ？	鼻汁、咳、口唇炎、化膿性皮膚炎	臨床所見から	エンロフロキサシン投与	完治
152	？	下痢	診断方法が分かりませんでした。	サルファ剤投与	一度良くなるも再発して死亡
153	原虫感染	下痢	糞便検査	抗原虫薬投与	不明
154	細菌、原虫（コクシジクム）	脱水、下痢	検便と臨床所見	ニューキノロン剤、ＳＴ合剤、輸液等	2-3時間後に死亡
155	皮膚真菌症	全身脱毛	培養	クロルヘキシジン薬浴、ニューキノロン、ケトコナゾール内服	治癒
156		食欲不振→廃絶　下痢を伴っていた。重度の衰弱を呈していた（購入間もない動物）。		ビタミン剤等の庇護治療と抗生剤（バイトリル）注射	死亡
157	皮膚感染症（局所）	脱毛、色素沈着（+）、小血疹（+）	ファンガセク（-）真菌培養	ヒビテンによる局所消毒	完治
158	細菌性下痢	下痢	検便	抗生剤投与	完治
159	細菌感染、原虫感染（ジアルジア）	下痢、呼吸器症状	X-ray　検便	抗生剤、メトロニダゾール投与	完治
160	細菌性肺炎	肺炎	X-ray	抗生剤、輸液	死亡
161	細菌感染、その他横隔膜ヘルニア	頭部皮下膿瘍、呼吸困難	X-ray、ニードルバイオプシー	抗生剤、酸素療法、利尿剤	治療中
162	門歯損傷による細菌感染	鼻腔狭窄、開口呼吸	X-ray	イソジン塗布、エンロフロキサシン投与	再来院無し
163	急性肺炎	著しい全身衰弱　解剖所見：肺の充血(著しい)、鼻・眼瞼周囲咬傷多数	病理所見より	保温、皮下補液、抗生剤(ペニシリン系)投与	死亡
164	急性肺炎	胸囲膨満、脱毛	病理所見より	抗生剤(ペニシリン系→セファロスポリン系)、皮下補液、H2拮抗剤、消化剤	死亡
165	真菌症	脱毛	簡易真菌培養	抗真菌薬	治療中
166	細菌・原虫感染	下痢	便の鏡検でトリコモナス確認	バイトリル、プリンペラン、ペリアクチン経口投与	完治

No.	疑われた感染症	主な症状	診断方法	治療法	予後
167	パスツレラ症(?)	濃性鼻汁、食欲不振		補液,バイトリル	完治
168	細菌感染	結膜炎、下痢、膿鼻汁		ニューキノロン剤投与	完治
169	パスツレラ症	鼻汁、呼吸器障害	臨床症状により	バイトリルR投与	完治
170	肺炎、脳炎	痙攣		抗痙攣剤投与	死亡
171	細菌	発咳、口内炎、舌炎	鏡検	ニューキノロン、ビタミン剤、補液	死亡
172	細菌	口角炎	鏡検	ニューキノロン、ビタミン剤	完治
173	真菌症(仮診断)	全身の脱毛	脱毛がRing Warm状	抗真菌外用薬(トルシセン)	不明
174	ハジラミ又はダニ	痩削、貧血、虚脱	臨床症状から	抗ダニ剤	貧血により死亡
175	パスツレラ症、上顎切歯の内部の過長による鼻腔、涙腺狭窄	(濃性)鼻汁、結膜炎	臨床症状、レントゲン検査	テトラサイクリン剤、他対症療法	呼吸不全にて死亡
176	細菌・ウイルス感染	下痢便	症状から	セファム系抗生物質、栄養剤投与	
177	細菌感染?門歯歯根炎	開口呼吸、呼吸器症状	X-ray、臨床症状から	エンロフロキサシン投与(バイトリル)	死亡
178	不明	天然孔からの出血			来院中に死亡
179	細菌感染	濃性鼻汁、衰弱	肉眼所見	エンロフロキサシン、アモキシリン	多分死亡
180	細菌	結膜充血	視診のみ	コロナコール点眼	
181	細菌又はウイルス	くしゃみ、鼻水	臨床症状	エンロフロキサシン、抗ヒスタミン剤	完治
182	細菌?	膿皮症	臨床所見から	エンロフロキサシン投与	完治
183	白癬菌症皮膚病	全身の皮膚を痒がり、毛をむしり脱毛	菌分離	グルセオフルビン内服	良好
184	細菌感染	排尿痛、赤色尿	尿の直接鏡検で桿菌多数	セフェム系抗生物質投与	治癒
185	細菌感染	皮膚痂皮形成	痂皮下膿汁中に球菌多数	セフェム系抗生物質投与	治癒
186		元気沈、食欲不振、脱毛		栄養剤、ゲンタシン投与	2週間後死亡したとのこと
187	細菌性	鼻水、くしゃみ、食欲減退	症状より	テトラサイクリン投与	完治
188	細菌性	呼吸速非(努力性呼吸)、食欲減退	症状より	テトラサイクリンで反応がなかったので、エンロフロキサシン(バイトリル)投与	完治
189	コクシジウム症	下痢	検便	ダイメトン	完治
190	パスツレラ症	皮下膿瘍(多発性)		ビクタス	予後不良
191	子宮蓄膿症	外陰部から血膿	分泌物の鏡検、腹部触診	エンロフロキサシン投与	完治

No.	疑われた感染症	主な症状	診断方法	治療法	予後
192	細菌・ウイルス	呼吸困難、気管支炎	一般症状より	エンロフロキサシン	転院
193	細菌、ウイルスその他の感染症	虚脱しているにもかかわらず、食欲あり。下痢、悪臭、脱水、低体重	視診による	抗生剤(バイトリル)、補液(リンゲル)	死亡
194	細菌感染	鼻炎症状	一般所見のみ	エンロフロキサシン及びビタミン剤投与	完治
195	細菌感染(外傷)	皮下腫瘍	菌分離	タリビット投与	完治
196		鼻炎、水様鼻汁		エンロフロキサシン投与	完治
197	細菌・ウイルス感染症	濃性鼻汁、呼吸音	診察のみ、	クロロマイセチン	不明
198	細菌感染	鼻汁、結膜炎		マクロライド剤投与	完治
199	細菌、又はウイルス感染	下痢、吐血、低体温		抗生剤と対症療法	２日で死亡
200		元気消失、体重減少	検便、コクシジウム	サルファ剤投与	完治
201	細菌	血尿		エンロフロキサシン	
202	細菌感染又はウイルス感染	食欲不振	臨床症状	栄養注射、抗生物質投与	死亡
203	呼吸器感染症	鼻汁、肺炎、開口呼吸	症状から	抗生剤、ネブライジング	不明
204	不明	皮下膿瘍、結膜炎	分離同定せず	ゲンタマイシン投与	完治
205	ブドウ球菌？	前肢爪基部の炎症	細菌の確定はしていませんが、染色により	イオウ系シャンプーにて洗浄、AB投与	完治
206	細菌又はウイルス	血尿、全身性痙攣	臨床症状から	バイトリル、リンゲル、ビタミン剤	初診時より12日目に死亡
207	細菌性皮膚炎	脱毛(全身的)	皮膚スタンプ標本	エンロフロキサシン剤投与	良好に経過
208		下痢	検便、鉤虫	コンバントリン	完治
209	肺炎	肺ラ音		セフェム　IM	完治
210	細菌感染	皮下膿瘍(腹部)３ヶ所、結膜充血		バイトリル投与、排膿・洗浄	完治
211	ランブル	軟便、下痢、食欲不振	検便検査から	メトロニダゾール内服、投与	１ヶ月後完治
212	後躯麻痺による肢の感染	四肢の褥瘡	確定診断はつかない	抗生物質、デキサ、ビタミン剤等	死亡
213	パスツレラ症	鼻腔膿汁		エンロフロキサシン	死亡
214	？パスツレラ症	呼吸器感染	X-Ray	エンロフロキサシン	時々再発
215	細菌感染	下痢		クロラムフェニコール	治癒
216	細菌感染	膿性鼻汁	臨床所見から	ゲンタマイシン剤投与	完治
217	細菌	皮膚病		バイトリル剤投与	完治
218	細菌	下痢	所見	抗生剤	良
219	パスツレラ症	皮下膿瘍	臨床所見	膿瘍の切開排膿、エンロフロキサシン投与	完治

No.	疑われた感染症	主な症状	診断方法	治療法	予後
220	原虫感染	下痢	糞便検査	メトロニダゾール投与	完治
221	シュードモナス症	肺炎	菌分離	ニューキノロン系抗生物質投与	完治
222	細菌	膿様鼻汁		CP.	完治
223	パスツレラと思われる	膿瘍、白色軟性腫塊(皮下)	感染性診断	抗生剤、オフロキサシン	衰弱死
224	パスツレラと思われる	膿瘍、白色軟性腫塊(皮下)	手術部の感染	抗生剤、オフロキサシン	延命したが他の疾病で死亡
225	ジアルジア条虫症	下痢、食欲不振、痩削	検便	メトロニダゾール剤、ドロンシット	死亡
226	疥癬	皮膚病	鏡検	イベルメクチン	完治
227		呼吸器症状、膿性鼻汁、食欲減退		抗生剤、気管支拡張剤、ACE阻害剤、	治療継続
228	細菌感染	鼻腔内膿性鼻汁	臨床症状から	バイトリル投与	完治
229	細菌感染	皮下腫脹	所見のみ	エンロフロキサシン投与	完治
230	真菌症	皮膚の脱毛、鱗屑	皮膚掻爬試験	抗真菌剤(グリセオフルビン)	死亡
231	細菌感染？(二次的なものか)	食欲廃絶、盲腸、食滞、胃内ｶﾞｽ発酵	胃内容物より桿菌、球菌多数	対症療法で改善せず	死亡(試験的開腹中死亡)
232	細菌	歯根膿瘍、鼻炎	症状より	バイトリル、抜歯	完治せず、状態は色々変化
233	鼻炎	鼻汁、くしゃみ	症状より	テトラサイクリン剤	完治
234	パスツレラ症	結膜炎、発熱	臨床所見	テトラサイクリン、フロキサシン	完治
235	真菌症	脱毛	鏡検	ケトマナゾール	治癒
236	Strepto cocus	結膜炎	診断的治療	エリスロマイシン点眼	治癒
237	原因不明、環境変化？	食欲不振、下痢			２週間以内に３匹が死亡
238	パスツレラ症	下顎皮下膿瘍、鼻腔内膿性鼻汁	電話相談の問診にて		治療前に死亡
239	細菌感染	食欲不振、下痢		エンロフロキサシン投与	完治
240	皮膚細菌感染症	膿痂疹		エンロフロキサシン投与	完治
241	皮膚真菌症	頭皮Ring worm様病変	臨床症状	消毒及び抗真菌剤配合軟膏(ビクタスoint)	不明
242	敗血症、肺不全	解剖所見-左肩部より胸部壊死、胸部より肺に菌が入り、左肺壊死	解剖所見より	死後持ち込み	
243	細菌又はウイルス	呼吸困難と痙攣	レントゲン所見により肺炎確認	酸素吸入、クロロマイセチン、Lasix nexa	治療中に死亡、飼い主の了解が得られず解剖できず
244	皮膚真菌症	脱毛	ウッド灯テスト	グリセオフルビン投与	完治
245		鼻汁、開口呼吸		バイトリル、トラネキサム酸処方	完治
246	パスツレラ症	上部気道炎、皮下膿瘍	塗末染色	ニューキノロン系、テトラサイクリン系	慢性的に再発し、死亡
247	パスツレラ症	上部気道炎、皮下膿瘍	塗末染色	ニューキノロン系、テトラサイクリン系	完治、しかし腫瘍で死亡

No.	疑われた感染症	主な症状	診断方法	治療法	予後
248	細菌	鼻炎	臨床症状より	Baytril投与	良好
249	細菌	鼻炎、下顎膿瘍	臨床症状より	Baytril投与	死亡
250	線虫感染	無症状	検便　線虫だが種名まで同定できず	イベルメクチン	再来せず不明
251	細菌	歯根膿瘍		エンロフロキサシン投与、外科的切開	死亡
252	細菌性下痢	下痢、脱水、体温低下	検便(直接塗末)	輸液、抗生物質	死亡
253	ウイルス性	くしゃみ、鼻汁	臨床症状	バイトリル投与、下痢止め	下痢が続いたまま元気よく生活している
254	細菌感染	下顎腫脹、鼻汁		ステロイド、セファレキシン	死亡
255	細菌感染	顔面の深部膿皮症	細胞診	セファレキシン、Vit.E、プレドニゾロン投与	完治
256	細菌感染 G(+)菌分離	濃性鼻汁	菌分離	テトラサイクリン系抗生剤投与→クリスロマイシン投与	来院せず、不明
257	細菌感染	血尿	尿の細菌培養	テトラサイクリン系抗生剤投与→クリスロマイシン投与	完治
258	細菌	下痢	抗生物質に反応した	アンピシリン	完治
259	細菌	血尿	抗生物質に反応した	抗菌剤	治療に反応するが何度か再発後、死亡
260	細菌？	下痢	臨床上	テラマイシン＋タンニン酸	？
261	パスツレラ	鼻汁、目やに、食欲低下		バイトリル	良好
262		食欲不振で来院、外的所見無し、見た目には元気		バイトリル注	その後来院せず不明
263	原虫感染	下痢	鏡検	メトロニダゾール投与	完治
264	原虫	下痢	検便	メトロニダゾール	完治
265	細菌性	血尿	Echoで結石	バイトリル投与	多分完治？
266	細菌	鼻腔内膿性鼻汁	細胞診、球菌多数検出	ニューキノロン投与	完治
267	原虫(イソスポーラ)寄生	左斜頸、歩様そうろう	検便	サルファ剤投与	３日後症状改善その後不明
268		鼻汁、下痢		ニューキノロン注射、鼻閉解除処置、アモキシリン内服	軽度咳嗽
269		嘔吐、食欲不振		ビクタスPO　ビタミン剤、バイトリルIM　プリンペランSQ	完治
270	真菌	後躯痒がる、脱毛	ウッド灯(++)	グルセオフルブン投与、薬用シャンプー(クロルヘキシジン)	良(毛、生え出す)
271		血尿	尿ペーパー	ニューキノロン内服、止血・抗炎症剤内服　２回	完治
272	細菌感染、消化器障害	嘔吐、下痢、食欲不振、元気消失		バイトリルIM　プリンペランSQ　デキサメサゾンIM	完治
273	パスツレラ	鼻汁、膿瘍	外見的診断	バイトリル投与	完治

No.	疑われた感染症	主な症状	診断方法	治療法	予後
274	細菌・ウイルス感染	下痢、呼吸促迫	触診、聴診、問診	バイトリル、プリンペラン、タチオン、アプシード、トラネキサム酸、ベルベリン	不明
275	細菌・ウイルス感染	呼吸促迫、食欲減退	触診、聴診、問診	バイトリル、プリンペラン、タチオン、アプシード、トラネキサム酸、ベルベリン	完治
276	出血性下痢症？	下痢		エンロフロキサシン	死亡
277	呼吸器系細菌感染症	濃性鼻汁、鼻出血、呼吸困難		エンロフロキサシン投与	死亡
278	細菌性下痢	下痢	FT	パルミチン酸　クロラムフェニコール投与	完治
279	細菌	鼻汁、結膜炎、咳	臨床症状から	テトラサイクリン剤内服	完治
280	鼻汁			ニューキノロン	完治
281	パスツレラ？	くしゃみ、A↓、　V↓		バイトリル	？
282	？	clia, A↓、　V↓		バイトリル	？
283	トリコモナス	clia, A (-) 、　V↓	便検査（直接法）	メトロニダゾール	？
284	真菌？	脱毛	スクレーピング	グリソビン	？
285	細菌	結膜炎、濃性鼻汁、肺炎	臨床診断	エンロフロキサシン投与	完治
286	パスツレラ症	結膜炎、濃性鼻汁	臨床症状のみ	ニューキノロン系投与	完治
287		下痢	回虫	ピペラミン投与	
288		下痢	回虫	ピペラミン投与	
289	細菌	ノミによる皮膚疾患	皮膚の状態により	フロントライン塗布、セファレキシン内服	完治
290	ウイルス・細菌	元気・食欲不振、全身衰弱	全身症状(体温等)	テトラサイクリン剤投与	完治
291	小型条虫	下痢	糞便検査	プラジクアンテル剤	完治
292	結膜強膜炎、細菌性	目の腫脹	菌分離	テトラサイクリン点眼、オルビフロキサシン点眼	完治、畜主に感染
293	不明	ｼｮｯｸ状態、痩削、下痢		補液直後死亡	死亡
294	細菌、ウイルス	気道炎	分泌物	輸液、エンロフロキサシン	不明
295	呼吸器感染症	くしゃみ、鼻水、咳、食欲減退		エンロフロキサシン他、塩化リゾチーム	完治
296	消化器	下痢、吐き気		テトラサイクリン系、塩化リゾチーム他	完治
297	？	突然下痢、衰弱		皮下輸液、エンロフロキサシン投与	同日中死亡
298	ウイルス症	結膜炎		クロロマイセチン	不明
299	細菌	下痢		メトロニダゾール	完治
300	不明	元気、食欲の喪失	臨床所見より	キノロン抗生剤の注射	完治
301	不明	血尿	臨床所見より	キノロン抗生剤の注射	完治
302	パスツレラ	結膜炎		OTC	完治
303	パスツレラの疑い	低体温、膿性鼻汁		クロロマイセチン剤投与	完治

（2）ジリス

No.	疑われた感染症	主な症状	診断方法	治療法	予後
1	細菌又はウイルス感染	くしゃみ、咳、下痢（飼い主も風邪様症状）	症状から	合成ペニシリン等投与	不明
2	細菌性	呼吸器症状、くしゃみ、鼻水		クロマイパルミネート投与	完治
3	細菌性	呼吸器症状、呼吸が荒い	聴診-心音→徐脈、肺胞粗れい音(+)	クロマイパルミネート投与	?
4	細菌、その後ハエウジ症	脱水、痩削、呼吸困難、死亡直前に保護	特になし	寄生虫の除去、その後対症療法を行う	死亡
5	細菌感染	皮下膿瘍	臨床所見から	エンロフロキサシン剤投与	完治
6	細菌感染	くしゃみ、鼻水	菌分離	ニューキノロン投薬	完治
7	呼吸器感染	結膜炎、鼻汁	身体一般検査	ドキシサイクリンP.O.	不明
8	呼吸器感染、尿路感染の疑い	鼻汁、排尿痛	身体一般検査	バイトリル投与、ビタミン、ミネラル投与	不明
9	呼吸器感染	目やに、脱水、鼻汁、虚脱	身体一般検査	バイトリル、リンゲルI.P.	死亡
10	真菌症	脱毛(鼻梁部)、掻痒感	スクラッチ標本	ニゾラール塗布	完治
11	細菌	膿瘍	膿	エンロフロキサシン	完治
12	原虫（トリコモナス）、線虫(糞線虫)	下痢	糞	アルベンダゾール、イベルメクチン	完治
13	細菌	下痢、膿鼻汁		テトラサイクリン	死亡
14	細菌	膀胱炎	尿沈さ	クロラムフェニコール、ビタミン剤、ニューキノロン	完治
15	細菌	皮下膿瘍	鏡検	バイトリル	完治
16	呼吸器　ウイルス・細菌感染	くしゃみ、鼻汁	臨床症状より	テトラサイクリン剤投与	不明
17	糞線虫感染	下痢、食欲低下	糞便の鏡検	イベルメクチン投与	完治
18	原虫	下痢	検便	メトロニダゾール	完治
19	細菌、ウイルス性？	咳、くしゃみ、鼻汁	臨床症状より	Baytril(キノロン系)注射及び経口投与	
20	細菌性皮膚炎	胸部皮膚の脱毛、掻痒感	皮膚スタンプ標本	セファロスポリン剤投与	完治
21	細菌又はウイルスによる呼吸器感染症	呼吸速迫、呼吸困難、鼻出血	臨床症状から	ニューキノロン剤投与(バイトリル)	死亡
22	皮膚糸状菌 Microsporum canis. or sp	四肢端の脱毛、色素沈着	臨床症状、ウッド灯、飼育環境	ポビヨンヨード外用、床材交換	不明
23	細菌感染？	頬袋内腫瘤、出血（外傷性？腫瘍性？）		エンロフロキサシン投与（バイトリル）	死亡
24	真菌感染	皮膚の脱毛他	症状から	グリソビン投与	不明
25	細菌	血尿	尿	エンロフロキサシン	完治